

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年9月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2021年9月11日～9月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の9月の状況を見ると業況DIは、前月より4.8ポイント悪化の▲42.0となった。

2017年9月以来49ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲36.3、当月と比べ5.7ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2021年10月～ 2021年12月
業況	▲20.5	▲27.7	▲37.0	▲28.1	▲37.2	▲42.0	▲36.3
売上	▲4.1	▲10.8	▲22.0	▲11.0	▲19.2	▲26.4	▲24.0
採算	▲17.2	▲22.3	▲41.0	▲29.6	▲33.0	▲45.2	▲41.2
仕入単価	▲36.9	▲36.2	▲44.9	▲43.7	▲47.7	▲51.6	▲51.6
販売単価	0.8	0.0	6.3	9.3	1.5	5.6	1.6
従業員	18.0	19.2	16.5	18.0	23.9	25.8	28.3
資金繰り	▲10.7	▲15.4	▲13.4	▲11.7	▲16.3	▲18.6	▲19.4

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2021年10月～ 2021年12月
建設	▲17.3	▲28.5	▲32.3	▲20.0	▲27.6	▲31.1	▲37.9
製造	▲24.1	▲13.4	▲25.0	▲30.0	▲34.5	▲42.9	▲32.1
卸売	▲15.4	▲27.6	▲29.6	▲14.3	▲35.7	▲29.6	▲25.9
小売	▲20.0	▲35.0	▲61.1	▲50.0	▲63.2	▲52.9	▲41.2
サービス	▲26.1	▲39.1	▲47.9	▲36.4	▲33.3	▲60.9	▲47.8

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員及び下請業者の不足のため、受注量を制限している状況。特に新型コロナウイルス感染症の影響は感じていない。（総合工事）</li> <li>・かねてからの得意先である大手ゼネコンからの旭川地区での受注が減少傾向にある。（総合工事）</li> <li>・新型コロナウイルスによる影響が設備業界でもジワリジワリと出てきている。衛生機器等の納期が2～3ヶ月の回答で引き渡しに間に合わない事例がある。今後どのような対策をしていけばと思案中である。（設備その他）</li> <li>・建築資材の値上げが続いており、収益の悪化が不安である。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作物の収穫量は当初より増加できたものの、北海道を含めた緊急事態宣言や他県のまん延防止等処置により売上が伸びないままである。解除しても又まん延防止処置等が発令した場合、売上の回復は厳しいものとなる。（食料品）</li> <li>・年内に販売価格の見直しを図る。天候不順による農作物の高値。最賃の上昇。（食料品）</li> <li>・印刷に関する主要資材の値上げが発表されて納入業者からの価格交渉が始まった。印刷の売上は下がったままなので業界的に更に厳しくなっている。（印刷・出版）</li> <li>・ウッドショックによる材料の値上げに伴う利益の圧迫。新型コロナウイルスによる消費の低迷。（家具・木材）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムのロックダウンの影響で商品の欠品が続いている。また中国の電力制限の影響などによる遅延で今後の売上への不安が大きい。（繊維・衣服等）</li> <li>・売上増はグループ会社合併によるもの。I T 推進業務の専門部門を社内に設置した。（飲食料品）</li> <li>・仕入単価の上昇が続いており採算悪化の状況。東南アジアのロックダウンの影響で主要資材の入荷が未定の状況。（機械鋼材）</li> <li>・ウッドショックによる商品不足・価格上昇の影響を受け、今後建築現場の減少が進み売上の悪化になっている。（機械鋼材）</li> <li>・灯油の仕入値がゆるやかに上昇しており、販売価格への転嫁時期となっている。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる影響。緊急事態宣言期間来店客数が少ない中、9月12日から9月30日まで延長になり平日を含めた土・日の来店客数が0人のときがあり、閉店時間を早め18時にした。打つ手が無い。（衣服身回品）</li> <li>・新型コロナにより顧客が激減し、来店者もかなり少ない。飲食店と違い休業補償はないので支援金や雇用調整金でやり繰りしている。（その他）</li> <li>・コロナの影響により自動車生産台数減少のため、新車登録が減少し売上減少が続く見通し。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に続きホテルの観光客減少によりホテル売上3割減。当社は病院寝具もしており他の会社より被害は少ない。全体で2割の売上は非常に厳しい。役員給与の見直しで乗り越えている。（理美容・クリーニング）</li> <li>・非常事態宣言も相まって予約激減。先の見通しも立たない。（ホテル・旅館）</li> <li>・今のところ売上高についてはコロナの影響を感じないが次年度以降は不透明である。（その他）</li> <li>・人員の採用に目途が立ったものの最低賃金の引上げで10月以降に影響がでると思われる。労務能率改善等に注力し人件費の抑制を行う（残業手当等の削減）。（飲食）</li> <li>・緊急事態宣言の発出及び延長により人の移動制限が大きいため減収が続いており、厳しさがつのる。昨秋シーズンはGOTOトラベル政策により一時浮上できたが、今年はそれも見込めず業況悪化は著しい。自社での経費削減対策は限界にきており、年末に向け降雪期の増収に期待する。（運送）</li> <li>・緊急事態宣言に伴い、都市間路線、市内路線とも昨年度より利用減となっている。また、燃料価格の高騰が経営に悪影響を与えており、この傾向が続く場合は昨年度以上に厳しい状況となることが想定される。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI20.8 ポイント悪化、採算 DI20.7 ポイント悪化、仕入単価 DI6.9 ポイント悪化、販売単価 DI10.3 ポイント改善、資金 DI3.4 ポイント悪化、従業員 DI3.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.5 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他 6 ポイント改善、総合工事 6 ポイント、建築業 17 ポイント悪化となった。技術職員の不足、仕入単価の上昇との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI9.9 ポイント改善、採算 DI9.8 ポイント悪化、仕入単価 DI0.7 ポイント悪化、販売単価 DI4.3 ポイント改善、資金 DI7.5 ポイント悪化、従業員 DI6.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.4 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 10 ポイント改善、金属窯業他横ばい、食料品 29 ポイント、家具・木材 14 ポイント悪化となった。3ヶ月見通し下期予算ベース。2 工場の工具募集をしているが応募なしとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.9 ポイント悪化、採算 DI4.5 ポイント悪化、仕入単価 DI5.5 ポイント悪化、販売単価 DI0.5 ポイント改善、資金 DI0.4 ポイント悪化、従業員 DI7.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 10 ポイント悪化、繊維・衣服等 20 ポイント、食料品 4 ポイント、その他 11 ポイント改善となった。前年度よりも若干良い業況であるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI23.2 ポイント改善、採算 DI4.4 ポイント改善、仕入単価 DI2.8 ポイント改善、販売単価 DI5.3 ポイント改善、資金 DI2.2 ポイント改善、従業員 DI7.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品横ばい、食料品 25 ポイント、その他 5 ポイント、自動車 10 ポイント改善となった。新型コロナウイルスの影響ありとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI31.0 ポイント悪化、採算 DI27.0 ポイント悪化、仕入単価 DI6.1 ポイント悪化、販売単価 DI0.3 ポイント悪化、資金 DI1.5 ポイント悪化、従業員 DI3.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 27.6 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 30 ポイント、飲食 20 ポイント、整備業 30 ポイント、運送 100 ポイント悪化となった。アルバイト 20 名を使い、売上減、採算悪化、もう限界。最低時給 UP も追い討ちをかける。弁当、テイクアウトシフトも利益率が悪く、黒字化できるイメージがないとの声も寄せられている。</p>